



栃木県

生活支援体制整備

活動事例集



令和3(2021)年3月
栃木県

団塊の世代すべてが75歳以上となる2025年、さらに団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040年に向けて、高齢者人口が増加する一方で、働き手である現役世代の減少が顕著となり、地域の高齢者を支える人材の確保が喫緊の課題となっています。

こうした中、住民一人ひとりが、自分の住んでいる地域の状況や課題を共有し、自分らしい暮らしの実現に向けて、主体的に地域づくりに取り組むことが求められています。

平成27(2015)年4月から始まった「介護予防・日常生活支援総合事業」の実施により、県内各市町においても、生活支援体制整備を推進するため、協議体の設置や生活支援コーディネーターの配置が進み、地域の実情に応じた住民主体による助け合いの取り組みが推進されています。

具体的には、「居場所づくり」や「移動支援・買い物支援」、「生活支援に関するボランティア活動」など、住民主体の活動が次々と生まれており、各地域の生活支援コーディネーターも、地域に根付いた活動を展開しています。

このたび、生活支援体制整備の更なる促進のため、県内の好事例を集め、事例集を発行することとなりました。本事例集が、生活支援コーディネーターをはじめ、地域での活動を推進している方の一助となることを期待しております。



※本事例集に掲載している写真については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大以前の活動の様子を撮ったものもありますので、予めご了承ください。

居場所づくり

- ◆地域の居場所『きずなカフェ』（宇都宮市）…………… 1
- ◆自治会合同による居場所づくり(栃木市)…………… 3
- ◆地域住民の居場所『寺小いきいきC A F E』（那須塩原市）…………… 5
- ◆地域の強みを活かした社会資源開発『ワンチーム落合』（那須烏山市）…………… 7
- ◆居場所づくり『上延生（ながいき）の里』（芳賀町）…………… 9

移動支援・買い物支援

- ◆住民ボランティアと介護事業所との協働による買い物支援(小山市)…………… 11
- ◆サロンを拠点とした移動販売(真岡市)…………… 13
- ◆佐久山地区外出支援事業(大田原市)…………… 15

生活支援（ボランティア等）

- ◆植野たすけあい(佐野市)…………… 17
- ◆中央地区支えあいボランティア活動(鹿沼市)…………… 19
- ◆生活支援ボランティア『つなぐ輪 みぶ』（壬生町）…………… 21
- ◆制度の狭間問題にも対応した『あんしんサポート支援事業』（市貝町）…………… 23

普及啓発

- ◆住民目線による情報発信(高根沢町)…………… 25
- ◆寸劇を用いた啓発活動(那須町)…………… 27

検討の場づくり

- ◆くろねえ個別会議(上三川町)…………… 29
- ◆「向こう3軒両隣」を目指した安否確認の検討(益子町)…………… 31
- ◆松野行政区地域支え合い座談会(那珂川町)…………… 33

栃木県からのお知らせ

35